

吉田 茂 国際交流基金

第10回 八百津町中学生海外派遣事業

井の中の蛙、大海をも知る～中学生海外派遣研修を終えて

団長 教育課長 青山 孝平

8月26日朝、午前7時頃目覚める。昨夜、10日間の中学生海外派遣研修から帰国したばかりのはずだが、はてさて、昨日までのことは夢だったのか…本当に自分は米国まで行ってきたのかな？そんな思いに浸った朝でした。

8月16日朝の出発式から25日夜の解団式まで、その一瞬一瞬がめまぐるしく、見るもの・触れるもの・感じるもの全てが人生55年で初めての経験ばかり、まして生徒たちには尚更のことであつたでしょう。

あ～っ、自分たちは本当に良い経験をさせてもらったんだなあ、そして生徒たちは良い思い出も苦しい思い出も含めて、この貴重な経験を生かし、これからの自分の将来に何らかの形で役立てばいいなあ、改めてそう思わずにはられません。

さて、ここでこの研修を少し振り返ってみたいと思います。

2002年にスタートした八百津町の中学生海外派遣研修も今年で記念すべき10回目を迎えた。20名の定員を大幅に超える希望者を願っていたが、1名足りない19名の応募を受け、選考会を経て19名（八百津中学校15名・八百津東部中学校4名、男子9名・女子10名）全員参加できることが決定した。今年は、例年に比べ男子の参加が多く、非常に楽しみで頼もしさを感じた第1回目の説明会であつた。4回に亘る事前研修で、米国の文化や生活についての知識を得、英会話の練習やJAPAN NIGHT PARTYで披露する出し物の打合せなど、万全の準備を整え、結団式そして8月16日の出発式を迎えることとなった。

いよいよ8月16日出発の朝、引率者を含めた23名が期待と不安を胸に、緊張感を持ちながらバスへ…でも生徒たちは意外とリラックスモードかな？

バスの車中では添乗員さんから出国・入国などの手続きや書類の書き方などを教わり、セントレア到着。スーツケースを預け、手荷物チェック・出国審査等を受け、いよいよ飛行機に搭乗。約12時間という長旅も、各座席に配備されている先進のタッチスクリーン・デジタル・エンターテイメント・システム(?)でお好みの映画やゲームを楽しみ、併せて4回程度の機内食サービスがアクセントとなり、デトロイト空港まで「あつという間」と言う訳にはいかなかったが、十分に機内生活を満喫できた。

飛行機を乗り換え、ワシントンDCのR.レーガン・ナショナル空港に到着。可愛い女の子の『WELCOME YAOTSU GUESTS』の横幕に出迎えられ、遂に米国に着いたんだなあ実感した。生徒たちもこれから始まる研修の最大の目的であるホームステイへの期待と不安で少々神秘的な面持ちに？

空港からバスでホストファミリーが待つホテルまで。と我々が乗り

込んだバスの乗り口の上部のナンバーを見ると、何と「802」で

はないか。偶然か必然か…これは幸先良くやおつと縁があると早速カメラでパチリ！

そして、ホテルで出迎えてくれたホストファミリーたちの歓迎ぶりと言ったら、一言で表すと“米国らしい”…年々派手になっているらしい。風船、横断幕や歓声、家族総出のお出迎えに生徒たちの顔も緊張から笑顔へ変わる。これから6日間のホームステイ、みんな積極的に楽しくネ！と送り出した。

